

# 木繊維断熱材を在庫販売

クボデラ

クボデラ（東京都、窪寺伸浩社長）は、ドイツの木繊維断熱材「STEICO（シュタイコ）」の販売代理店となり、在庫販売を始めた。日本国内のシュタイコの総代理店はイケタコーポレーション（大阪市、池田佐知社長）で、首都圏ではクボデラが販売店第1号となる。17日には、シュタイコの物性などを学ぶ勉強会と営業戦略会議を開き、本格販売に向け体制を整えた。

## 首都圏で「シュタイコ」販売店第1号に

シュタイコは、トウヒを原料とする木質の繊維系断熱材。原料のトウヒはFSC、PEFC認証を取得している。原料に由来する透湿性能に加え、熱容量の高さを特徴とする。熱容量は、物体の温度を1度上げるのに必要な熱量のことで、数値が大きいほど温まりにくい性質を持つ。これが夏の暑さ対策に有効とされ、近年は断熱性能とともに、熱容量を重視する傾向が強まっている。



製品の荷姿。郵別配送に対応する

シュタイコの熱容量は2100J/kg・K。グラスウールやロックウールなどの繊維

維系断熱材に比べ数値は大きく、「ほぼ丸太と同じ熱容量を持つ」（イケタコーポレーション）という。クボデラが在庫販売するのは充填断熱材「STEICO FLEXO 38（シュタイコフレックス038）」（熱伝導率

は2100J/kg・K）で、100mm厚、1220mm長、390、430mm幅の2サイズ。今回のシュタイコの在庫販売により、住宅

イズ。防蟻処理仕様のノンホルムアルデヒド（ノンホル）断熱材となる。相模原販売所に在庫し、郵別配送に対応する。

シュタイコの取り扱いには、「木材を扱う当社と親和性が高いと判断した」（窪寺社長）ため、初年度は売上高2000万円を見込んでいます。

同社は、「木材」を切り口に機能強化を進めている。首都圏サービスマスター（さいたま市）では、造作材加工の設備を備え、造作材の郵別加工・配送に対応している。

近年では、B to Cを中心とする神棚の取り扱いを強みに、一般消費者との接点創出機会を拡大させている。

会社や工務店だけでなく、案力も高めていきたい。設計士などへの提案だ。